

根鄉公民館

根郷地区の概要

根郷地区は、佐倉市の南部に位置し、鹿島川右岸とその支流高崎川及び上流の南部川左岸に挟まれた丘陵地に位置している。

「根郷」の「根」は、ものの根元を意味し、嶺・尾根に通じ、「郷」は、里・村を意味しているが、当地区は、台地上或いは台地の根もとを取り巻いて集積した集落により構成されており、旧石器時代、縄文、弥生期の土器出土、住居跡、古墳及び中世の城館跡などが点在し、古来より住みよい所であったと思われる。

中世は、上総介一族の勢力下にあった印東荘（古代末から中世にかけて佐倉・酒々井・富里に有った荘園）に属し、承平年間に千葉氏が支配するようになってから集落が点在しはじめ、現在のような村落が構成されたのは藩政時代に入ってからとなる。

明治22年4月、町村制が施行され、六崎、石川、城、木野子、神門、寺崎、太田、大篠塚、小篠塚の9地区により根郷村が発足した。

当地区は、旧来、鹿島川と高崎川流域を中心に、稲作を主体とした農業が営まれる農村地帯であったが、現在、地域全体では、農村地域に残る自然豊かな山野と田畑、藤治台・大作・大崎台・山王・春路等の住宅地域、更にはJR佐倉駅周辺の商業地域、佐倉インターチェンジ周辺の臨空工業地域といった多面的な地域構成となっている。

地区内には、JR佐倉駅と東関東自動車道の佐倉インターチェンジがあり、鉄道と高速道路における佐倉市の玄関口となっており、更に成田空港に近接する地の利を生かし、第1・第2・第3工業団地・熊野堂工業団地が整備され、本市の産業の中心地となっている。

また、地区内には、諸学校施設として、根郷小学校、寺崎小学校、山王小学校、南部中学校、根郷中学校、県立佐倉南高等学校（併設：県立印旛特別支援学校さくら分校）、千葉敬愛短期大学があり、文教地区としての側面も持ち合わせている。

根郷地区の面積は、市域全体の16.9%に当たる約17.5km²、人口は14.7%に当たる25,212人であるが、今後は、独立行政法人都市再生機構施行による土地区画整理事業「寺崎北」地区（施行面積46.3ha、計画人口5,000人）への転入等により緩やかな人口増加が見込まれると同時に、JR佐倉駅に近接する寺崎地区は、新たな商業集積地として発展している。

根郷地区のデータ

【令和4年3月末現在】

- 根郷地区：面積 約17.5km² （佐倉市：面積 103.69km²）
- 根郷地区：住基人口 25,212人 （佐倉市：住基人口 171,747人）
- 根郷地区：人口密度 1,440人/km² （佐倉市：人口密度 1,656人/km²）

1. 公民館運営計画

新型コロナウイルス感染拡大防止

施設利用者等の健康と安全を最優先に、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じていく。

感染状況に応じて、臨時休館や一部利用制限付き開館などを実施する。

開館中は、施設内の消毒を適宜実施、感染予防の啓発のほか、状況に応じて、部屋の定員や集団感染のリスクが高いとされている活動の利用を一部制限する。

市公共の集会施設合同で策定した『新型コロナウイルス感染症拡大防止の注意事項』及び『「集団感染拡大のリスクがあると考えられる活動」における施設利用の留意点』を当面の間適用していく。

運営方針

佐倉教育ビジョンを基本として、根郷地区の特性を活かし、住民の生涯学習及び各種地域活動の場として中心的な役割を果たす施設となるように努める。

努力目標

- 新型コロナウイルス感染拡大防止に努める。
- より多くの人に利用してもらえる施設となるよう、施設設備の提供等に工夫をこらすとともに、利用者に好感を持たれる対応に努める。
- 幅広い年齢層の幅広い要望に応え、時代のニーズに応じた多様な事業を展開する。
- 地域の社会資源を活用するため、また、郷土意識の高揚のための橋渡し役となるように努める。
- 地域に根ざした社会問題への関心の喚起に努める。
- 公民館に関係する各種団体と連携を密にし、活動の支援に努める。

施設利用

開館日・開館時間

①日曜・月曜・火曜・祝日 9時～17時

②水曜～土曜 9時～21時

※17時以降の施設利用がない場合は17時まで

利用区分 1時間単位（9時～21時）

休館日 第2・4月曜日、年末・年始 12月28日～1月4日

2. 公民館利用状況

年度別利用状況

区 分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
利用件数 (件)	3,416	2,972	2,547	630	1,571
利用人数 (人)	33,794	33,257	27,829	4,673	11,949
開館日数 (日)	333	332	309	239	333

※市内公民館の新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応

令和3年 4月 1日～令和3年11月14日・・・一般利用（一部利用制限付き）

令和3年11月15日～令和4年 3月31日・・・利用制限のうち調理を伴う活動を可とする。（飲食は不可）

令和 3 年度施設別年間稼働率

施設名称	利用可能回数	利用回数	稼働率
ホール	3,418	758	22.2%
学習室 1	3,418	886	25.9%
学習室 2	3,418	474	13.9%
プレイルーム	3,418	849	24.8%
調理室	3,418	223	6.5%
和室	3,418	226	6.6%
集会室	3,418	803	23.5%

※市内公民館の新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応

令和3年8月4日～9月30日・・・開館時間を 20 時まで短縮

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、線引き事業については中止とした。

領域	事業名	対象	期間・回数	内容
家庭教育	親子で遊ぼう ぼっぼちゃんくらぶ	2歳児と保護者 16組 (8組×2コース)	【前期】4組8人 5/13 4組8人 5/20 4組8人 5/27 4組8人 6/3 4組8人 6/10 4組8人 6/17 4組8人 【後期】4組8人 10/14 3組6人 10/21 3組6人 10/28 4組8人 11/4 3組6人 11/11 4組8人 11/18 3組6人	全6回の講座の前半3回は、親子で一緒に絵本・手遊び・工作等を楽しみ、後半3回は体操を中心に 行い、幼児の様々な発達を促した。
	ちば探訪	小学生と保護者 8組	7月 1回	ちばをテーマに、自然や史跡、文化等を親子で訪ねて学ぶ。郷土を再発見することにより郷土愛を高める。
	こども工房	家族とつくる クリスマス木工 クラフト こどもと家族 8組	12/19 大人 5人 こども 7人	こどもとその家族で行うワークショップを通じて豊かな心を育むプロセスと時間を提供し、家庭教育力の向上を図った。
青少年教育	根郷公民館 防災ダイキャンブ	根郷・寺崎・山王小学校の児童 15人	7/11 13人	災害時に役立つスキルを学ぶとともに、子供たちの自主性・協調性を高め、心豊かでたくましく生き抜く力を育んだ。 また、子供たちの体験活動に係ることにより、地域住民や地域団体のつながりを深め、災害時の共助について考える一助とした。
	子ども体験講座	おもしろ 科学実験隊 小学4～6年生10人	9月～10月 2回	液体窒素や偏光フィルムを使った、理科に親しむ実験を行う。
		勾玉づくり 小学3～6年生14人	8/17 14人	体験型事業として、「勾玉づくり」を開催し、子どものやる気や自主性・協調性等を養った。
		絵画教室 小学3～6年生10人	7/30 11人	「色と形で気持ちを描こう―後ろはどんな形なの？後ろ姿で表現しよう―」をテーマに作品を制作する。
佐倉学	佐倉っ子塾共通講座 夏休み子ども 水辺探検ツアー	小学生 20人	7月 1回	生活環境課と共催。印旛沼等の自然環境やその他の自然体験学習により、環境への意識を育む。
成人教育	根郷寿大学	60歳以上 1グループ 30人 2グループ 30人	1グループ 5/21 29人 7/7 30人 9/17 26人 11/19 26人 1/21 中止 3/18 中止 2グループ 6/18 29人 8/4 26人 10/15 27人 12/17 27人 2/18 中止 3/18 中止	教養の向上と社会参加の推進を目的とし、郷土の歴史や文化、健康づくりなど幅広い分野を学んだ。また、受講者同士の交流も図った。 5・6月：開講式 オリエンテーション 7・8月：生活習慣病予防講座 9・10月：笑いで健康寿命を延ばそう 11・12月：長嶋さんとその時代 1・2月：高齢者の相談窓口「地域包括支援センター」の職員と一緒に明るく元気に健康づくり 3月：1年のまとめ 開講式
	シニアのための健康づくり講座	成人 各回15人	Aグループ 10/6 15人 10/20 14人 Bグループ 10/13 13人 10/27 13人	健康の維持増進を図り、生活習慣病予防を目的として、日常生活の中で簡単にできる有酸素運動等を中心に健康体操を実践した。

領域	事業名	対象	期間・回数	内容
	シニア向け初めてのスマートフォン教室	60歳以上 15人	11/9 12人	スマートフォンを、安心・安全に使うには、どうしたらよいか。KDDI(株)社員を講師に、理解を深めた。
	園芸教室	成人 15人	基礎講座 6/21 15人 体験講座 7/20 13人	佐倉ハーブ園連携し、ハーブについての講義とハーブ園見学など地元企業を知る講座を実施した。
	防災講座	成人 30人	7月 1回	地域住民の防災意識の向上させることにより、地域の防災力を強化する。(根郷防災デイキャンプと一緒に実施)
	千葉県文書館出前講座	千葉県における電気事業の変遷と発展 成人 30人	講師の都合により中止	明治期から戦前期までの電気事業史から、千葉県内に電気がどのように広まっていったか、佐倉市に電気が来たのはいつかなど、今では生活に欠かせない電気の歴史について学び、地域への理解を深める。
佐倉学	佐倉学入門講座	写真にみる佐倉の近・現代 成人 30人	9/10 25人	明治～昭和の佐倉の移り変わりをわかりやすい写真から学ぶことで郷土への愛着と理解を深め、地域を見直す機会とした。
		衛生行政のはじまりと伝染病予防対策 成人 30人	6/2 16人	明治初期から新たに布かれた衛生に関する制度や伝染病予防方法と、その当時の地域の人々の様子を学ぶことで郷土への愛着と理解を深めた。
		根郷ふるさと探訪 成人 各10人	野草観察会 7/3 雨天中止 10/9 10人 寺崎散策 11月 1回	根郷地区を散策しながら、季節の野草を観察し自然に親しんだ。 根郷をテーマに学び、自然や史跡、習俗行事等を訪ね、郷土を再発見することにより郷土愛を高める。
	佐倉学体験講座	こんにやく作り講座 成人 10人	3月 1回	体験型・参加型の講座。地域住民の協力を得て実施する。講座を通じて地域住民同士の交流を図る。地元根郷地区の食材を使用してこんにやく作りを行う。
団体育成	根郷地区社会教育関係団体への支援	該当団体	通年	「根郷地区青少年育成住民会議」、「南部地区子ども会育成会連絡協議会」及び各種団体の活動の支援を行った。
	定期利用者懇談会	利用団体代表者	6月 1回 (書面開催)	公民館の活動について理解を深めて頂くと共に利用団体からの意見、要望を伺った。また、グループ活動の意義の理解を深めた。
	調理室利用者懇談会	利用団体代表者	6月 1回 (書面開催)	公民館の活動について理解を深めて頂くと共に利用団体からの意見、要望を伺った。衛生環境を徹底するため整理整頓作業を行った。
広報	根郷公民館だより	根郷地区の各世帯及び事業所	4/20 400部 9/15 8,800部 3/15 400部	公民館の主催事業、利用団体の活動、地区の情報などを掲載した館報を発行した。
図書	図書の貸出・返却	幼児～成人	貸出人数 655人 貸出数 1,795冊 返却数 3,627冊	佐倉市立図書館と連携し、図書の貸出、返却の受付を行った。

1. 家庭教育事業

親子で遊ぼう ぼっぼちゃんくらぶ

①開設趣旨 絵本や親子遊び・体操などを通して、幼児の想像力や豊かな心を育み、同年齢の友達と触れ合うことで幼児期的人格形成を促す。また、参加者同士の交流を図り、地域における仲間づくりの機会を提供する。

②募集対象

前期 平成30年4月2日～平成31年4月1日生まれの子と保護者 8組

後期 平成30年4月2日～平成31年4月1日生まれの子と保護者 6組

③プログラム

(前期)

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	5月13日(木) 10:00～11:00	絵本の読み聞かせ はじめまして	楽母楽子 廣田 和子
2	5月20日(木) 10:00～11:00	絵本の読み聞かせ 作ったもので遊んでみよう	
3	5月27日(木) 10:00～11:00	絵本の読み聞かせ 魚釣りをしよう	
4	6月3日(木) 10:00～11:00	体操 投げたり、転がしたり、ボールで遊ぼう	米田 葉子 小林 松美
5	6月10日(木) 10:00～11:00	体操 タオルを使って体を動かそう	
6	6月17日(木) 10:00～11:00	体操 フープやマットにチャレンジしよう	

(後期)

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	10月14日(木) 10:00～11:00	絵本の読み聞かせ はじめまして	楽母楽子 廣田 和子
2	10月21日(木) 10:00～11:00	絵本の読み聞かせ 作ったもので遊んでみよう	

3	10月28日(木) 10:00～11:00	絵本の読み聞かせ 魚釣りをしよう	
4	11月 4日(木) 10:00～11:00	体操 楽しく動いてみよう	米田 葉子 小林 松美
5	11月11日(木) 10:00～11:00	体操 楽しく動いてみよう	
6	11月18日(木) 10:00～11:00	体操 楽しく動いてみよう	

④講座を終えて 昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大により前期・後期ともに事業を実施することができなかった。今回感染予防の対策をとりながら、安全・安心の講座を運営することを念頭に事業を実施した。まず、対象児を2歳児とその保護者とした。また、募集定員は8組、学習回数は今までの半分の6回とし、学習内容や時間の見直しも行った。新型コロナウイルス感染拡大防止の注意事項や健康観察カードを事前に送付し、参加する受講生も前もって準備できるよう配慮した。受付や会場内の立ち止まる場所に親子2名の足跡マークの配置やトラ柄模様のテープの貼付、フロアマットの設置で立ち入れる場所、立ち入れない場所を明示して、2歳児にもわかるようにした。事業終了後は自分の使用した道具の消毒作業を保護者に依頼し、協力してもらった。感染予防対策を見える形で提示することで、理解と信頼を得られたと感じた。

3密を回避することを最優先に事業を実施したため、受講生が協力しながら一緒に作る、作ったもので一緒に遊ぶ機会を持つことはできなかった。受講生の交流を図り、地域における仲間作りの機会を提供するという講座本来の狙いに十分コミットできなかった点は残念に思う。

アンケートでは同年代の子と遊ぶ機会があまりなかったので助かった、機会があればまた参加したい、という声が寄せられ、受講生は概ね満足感を得られたようだった。

ちば探訪

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

こども工房 家族とつくるクリスマス木エクラフト

①開設趣旨 木工材料を使って、こどもとその家族で協力しておもちゃを制作する。ワークショップを通じて、豊かな心を育むプロセスと時間を提供する。

②募集対象 こどもと家族 5組

③プログラム

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	12月19日(日) 13:30～16:00	親子で、クリスマスにちなんだ木エクラフトづくり	アトリエ そうわーくす

④講座を終えて こどもとその家族を対象に実施する木工クラフト講座は、講師に地

元で創作教室を主宰しているアトリエそうわーくすを迎え、今回で4回目を数える。

今年度制作するクリスマスにちなんだクラフトは「クリスマスツリー」。

こどもたちは講師が用意した木の枝や木片を選び分け、グルーガンやドライバーを使ってクリスマスツリーを作り、松ぼっくりや木の実、モールでツリーを装飾して仕上げた。

松ぼっくりは講師の自宅に植えられているドイツトウヒで、長さ約20cmと球果が圧倒的に大きい。ドイツトウヒの松ぼっくりは、鳩時計の下にぶら下がっているおもりのモチーフに使われることが多い。見たことはあっても手に取る機会の少ないもので、こどもたちは珍しそうに飾っていた。このクリスマスツリーは装飾物を取り払うと鍵やアクセサリー、写真などを掛けられるインテリアとなる、と講師から紹介があった。

創作作業終了後、前列の机にすべての作品を並べ見比べた。材料は同じでも、天然素材は形・長さがそれぞれで、一つとして同じものがない。その人だけの作品ができあがった。新型コロナウイルス感染症が収束したら、お互いの作品の良いところや工夫したところなどを話し合う交流の機会も設けていきたい。

講師からは作品を持ち帰ったら、今日来ていない家族や友達に見せて、物を創る楽しい時間を分かち合ってもらいたいと話があった。

2. 青少年教育事業

根郷公民館防災デイキャンプ

- ① 開設趣旨 災害時に役立つスキルを学ぶ中で、子供たちの自主性・協調性を高め、心豊かでたくましく生き抜く力を育むとともに、子供たちの体験活動を通じ、災害時の共助について考える一助とする。
- ② 募集対象 根郷地区の小学4～6年生 15人、根郷地区の中学生 6人
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	7月11日（日） 9：00～11：30	起震車体験、防災倉庫見学、防災啓発ビデオ鑑賞	危機管理課職員

- ④ 講座を終えて 本年度は新型コロナウイルスの感染の影響で規模を縮小して実施した。「密集を避けること」、また、学校側と相談する中「児童・生徒同士の接触を避ける」という条件で事業内容を検討した。そこで「起震車体験」「防災倉庫見学」「防災啓発ビデオ鑑賞」の3つとした。
- 起震車体験では、「東日本大震災」と「阪神淡路大震災」の二つの揺れを体験。担当者から「最近言われている、首都直下型地震は阪神淡路大震災と同じ縦揺れとなる」との説明を受けた。今後の発生が予想される揺れを体験できたことで、今後の地震発生時に対する心構えなど事前の備えができた。地震の揺れの違いを比較体験できる機会はこれまで無かったので、生徒・児童にとって貴重な実体験となった。
- 「防災倉庫見学」ではリストなどを見ながら、実際の備蓄品や発電機などを確認。児童・生徒にとって身近な存在である小中学校には防災倉庫、防災井戸があり、体育館は避難所にもなる。災害時に学校が地域において重要な役割を果たしていることを学んだ。
- 「防災啓発ビデオ」では、登下校で地震にあった時の注意点、災害時のいざという時の連絡方法、家具の固定など、身近な題材が分かりやすく説明されていた。特に災害時を想定し、事前に家族で話し合っておくことの大切さを学んだ。
- 近年台風などの災害が増え、首都直下型地震の発生も予想される中、今回は3つのプログラムであったが、より多くの様々な体験を通じ、児童・生徒の防災に対する意識の向上、災害時の心構え等を醸成していくことの重要性を感じた。

子ども体験講座 おもしろ科学実験隊

- ① 開設趣旨 子どもたちの五感を刺激する実験をとおして、遊びながら新しい発見をすることで、科学の不思議さ・楽しさに触れてもらう。
- ② 募集対象 小学4～6年生 8人
- ③ プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	9月25日（土） 13：00～15：00	液体窒素を使って超低温（-196℃）の世界を見てみよう！	成田市立成田西中学校 教諭 宮本 利之

2	10月 2日(土) 13:00~15:00	「浮いてこい」を作ってみよう!	千葉工業大学 教授 半沢 洋子 他1名
---	--------------------------	-----------------	---------------------------

④講座を終えて 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

夏休み子ども体験講座 勾玉づくり

①開設趣旨 勾玉作りや展示する土器などを通して、縄文時代の生活に触れる機会とするとともに、ものづくり体験の喜びを実感してもらうことで受講者のやる気や自主性を養う。

②募集対象 小学3～6年生 14人

③プログラム

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	8月17日(火) 10:00~12:00	勾玉づくり 古代のアクセサリをつくろう	千葉県教育委員会 文化財課職員

④講座を終えて 最初に縄文時代や弥生時代の土器や石器などについて解説があり、子どもたちは、出土した遺物に触れたり、講師が製作した石器で新聞紙を切ってみるなど、様々な体験を通して、楽しみながら古代の人々の暮らしについて学習することが出来た。

勾玉作りは、滑石を砥石や紙やすりを使って削り・磨く、根気のいる作業だったが、子どもたちは、熱心に講師の説明を聞きながら、1時間半かけて世界に一つの勾玉を作り上げることが出来た。

アンケートでは全員が楽しかった、次回も参加したいと答えており、新型コロナウイルス感染症の影響で、活動が制限されている夏休みの中で、楽しい体験の一つとなれば幸いである。

夏休み子ども体験講座 絵画教室

①開設趣旨 体験型の講座を通して、受講生のやる気や、創造力、自主性を養う。

②募集対象 小学3～6年生 10人

③プログラム

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	7月30日(金) 13:00~16:30	色と形で気持ちを描こう 後ろはどんな形なの?後ろ姿で表現しよう	ワールサークル会 員 他

④講座を終えて 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

佐倉っ子塾共通講座 夏休み子ども水辺探検ツアー

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

3. 成人教育事業

根郷寿大学

①開設趣旨 高齢化社会の中で、郷土愛を育み、地域の中で連帯を持ちながら健康で充実した生活を過ごせるよう、健康の保持増進、歴史・文化、社会現象などの学習の場を提供するとともに、受講者同士の交流を図る機会を提供する。

②募集対象 60歳以上 ①グループ30人、②グループ30人

③プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	5月21日（金） 9：20～11：30	開講式、オリエンテーション 日程説明、班長（副班長）の選出、 グループ討議	館長 担当
	6月18日（金） 9：20～11：30		
2	7月7日（水） 9：20～11：30	生活習慣病予防講座	みつば脳神経ク リニック理事長 大木 剛
	8月4日（水） 9：20～11：30		
3	9月17日（金） 9：20～11：30	笑いで健康寿命を延ばそう （講義とDVD鑑賞）	高齢者福祉課職 員
	10月15日（金） 9：20～11：30		
4	11月19日（金） 9：20～11：30	長嶋さんとその時代	市史編さん委員 内田 儀久
	12月17日（金） 9：20～11：30		
5	1月21日（金） 9：20～11：30	高齢者の相談窓口「地域包括支援セ ンター」の職員と一緒に明るく元気 に健康づくり	南部地域包括支 援センター職員
	2月18日（金） 9：20～11：30		
6	3月18日（金） 10：00～11：30	グループ発表 閉講式	館長 担当
	3月18日（金） 13：30～15：00		

④講座を終えて 今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を講じながら、いかに多くの方に受講してもらえるかを検討した結果、奇数月・偶数月の2グループに分け、同一内容の講座をそれぞれ実施するという形式となった。

コロナ禍において、人と会う機会が大きく減少していることから、まず公民館に足を運んでもらうことを念頭に、健康づくりを中心とした講座内容とした。

しかしながら、第5回・第6回の講座は、新型コロナウイルスの変異株による感染が拡大したことにより、残念ながら中止となってしまった。

グループ活動も積極的に行えない状況下において、受講者同士の交流を深めることは難しい面もあったが、講座に関する受講者アンケートでは、概ね良好の評価が得られた。

今年度は94名の受講申込みがあったことから、次年度は、さらに多くの方が受講できるよう実施方法について検討したい。

シニアのための健康づくり講座

- ①開設趣旨 シニアの世代になっても健康で暮らせるように、生活習慣病の予防に役立つ日常生活の中で簡単にできる運動について学び、シニア世代のQOL（生活の質）の向上を図る。
- ②募集対象 成人 Aグループ15人、Bグループ15人
- ③プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	Aグループ 10月 6日（水） 10:00～11:30	柔軟、筋トレ、有酸素、バランス運動の4つの運動を中心に学ぶ	AFAA認定 インストラクター 森 たか子
	Bグループ 10月13日（水） 10:00～11:30		
2	Aグループ 10月20日（水） 10:00～11:30		
	Bグループ 10月27日（水） 10:00～11:30		

- ④講座を終えて 昨年に引き続き今年度も定員を15名とし、A・B 2つのグループそれぞれ2回で講座を実施した。

今までの電話による先着順の申込みから、メール、ハガキ、FAXによる申込み方法に変更した。過去2年間受講したことの無い参加者が半数以上を占め、新たな層を呼び込むことができたと思う。

募集時点では、新型コロナウイルス感染症拡大傾向が続き、一時は開催自体も危ぶまれたが、無事講義と実技を交えた1時間30分の内容で行うことができた。

今年度のテーマは「作ってみよう！やってみよう！健康づくりの自分モデル 暮らしの中で体を動かすことを楽しもう」

講師は講座冒頭に市の施策「チャレンジマイヘルスプラン2021」を紹介し、主体的に健康づくりに取り組む大切さを説明した。この事業は市の広報紙やHPでお知らせしているものの、参加者の認知度は今ひとつのようだったが、講座終了後には自分なりの健康づくりの機会になるからと、友人も誘って応募する、という参加者もいた。

また、講座終了後の健康づくりをどうしようかと悩んでいる参加者が、本講座から立ち上がった自主サークルに入って活動を始めるなど、運動を習慣にして取り組む様子も見られた。

アンケートでは、「講座に参加して満足17名、やや満足8名(無記入1名)」と回答があり、参加者の満足度は今年度も高かった。学ぶ意欲の高まりや運動の継続など、講座開設には効果があったと考えられる。コロナ禍にあって不要不急の外出自粛で、長い期間自宅に引きこもることを余儀なくされてきたが、人生100年時代シニアが健康に暮らすために、食事・運動・社会とのつながりの重要性を改めて学び、自分の健康に向き合う機会となった。

シニア向け初めてのスマートフォン教室

- ①開設趣旨 スマートフォンを、安心安全に使うにはどのようにしたらよいか。シニア世代に向け、操作方法や便利なアプリの紹介も含め、理解を深める機会とする。
- ②募集対象 60歳以上 15人
- ③プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	11月 9日（火） 13:30～15:30	基本的な使い方や文字の入力方法、簡単なゲームアプリの使い方を学ぶ	KDDI（株）社員

- ④講座を終えて 講義内容は、基本的な使い方や文字の入力方法、マップの使い方、インターネットの使い方など。特に便利な機能としての音声入力に関しては、興味をもって操作している様子が見受けられた。また、災害時に便利な伝言板の使い方も学んだ。今回の受講者のほとんどがガラケーを使用しており、2022年から2026年にかけて各社3G回線提供の中止に伴うスマートフォンへの買い替えを迫られているものと思われる。そういった方々のスマートフォン操作に対する不安を解消できる意義のある講座となった。
- 今後スマートフォンが生活で果たす役割が大きくなっていくことが想定される中、対象者や学習内容の見直しをしながら、充実を図っていきたい。

園芸教室 ハーブに親しもう

- ①開設趣旨 佐倉ハーブ園と連携し、ハーブという植物を通して、園芸の基礎を学ぶとともに、地域について知る機会とする。
- ②募集対象 成人 15人
- ③プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	6月21日（月） 10:00～12:00	栽培の基礎と管理の方法についての講義	佐倉ハーブ園園長 柴田 忠裕
2	7月20日（火） 10:00～11:30	ハーブ園散策とハーブを使っの挿し木の実習	

- ④講座を終えて 第1日目は「栽培の基礎と管理の方法」についての講義があった。内容としては、植物を育成する上でのアミノ酸の働き、連作障害についてなど栽培の基本的な内容から、ハーブの利用法、ハーブ栽培のポイントなどについて実践的な説明があった。また、実際にその場でハーブティの入れ方を実演するなど具体的に分かりやすい講義内容となった。一方、受講者からは非常に専門的な質問も出ており、初心者はもちろん、専門的に学ぼうとしている方まで満足できる講義となった。
- 第2日目は「ハーブ園散策とハーブを使っの挿し木の実習」を行った。ハーブ園の散策では、参加者は熱心にメモを取りながら講師の話に耳を傾けていた。実際に生えている数種のハーブの香りを嗅ぎ比べたり、木に生っているブルーベリーを味わったりと、めったにできない貴重な体験となった。後半は、講師が挿し木の実演を行った。土の作り方から植え方、その後の管理の仕方など丁寧に説明を受けながら、各受講者も挿し木を行った。最後にオリジナルのハーブティを味わったりと、充実した内容の講義となった。

防災講座

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

千葉県文書館出前講座 千葉県における電気事業の変遷と発展

①開設趣旨 明治から戦前期までの電気事業史から、千葉県内に電気がどのように広まっていったか、佐倉市に電気が来たのはいつかなど、今では欠かすことのできない電気事業の歴史について学び、地域への理解を深める。千葉県文書館の出前講座として開催する。

②募集対象 成人 30人

③プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	10月22日（金） 10:00～11:30	明治から戦前期までの電気事業史から、千葉県や佐倉市に電気がどのように発展してきたかを学ぶ	千葉県文書館 中臺 綾子

④講座を終えて 講師の都合により中止。

佐倉学入門講座 写真に見る佐倉の近・現代

①開設趣旨 明治から昭和の佐倉の移り変わりをわかりやすい写真から学ぶことで郷土への愛着と理解を深め、地域を見直す機会とする。

②募集対象 成人 30人

③プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	9月10日（金） 13:30～15:30	写真集「写真に見る佐倉」を使って、佐倉の明治～昭和の武士の姿、風景、学校、鉄道、印旛沼、連隊、銃後の生活などの移り変わりを学ぶ	市史編さん委員 内田 儀久

④講座を終えて 内田儀久氏を講師に迎え写真集「写真に見る佐倉」を使って、明治から昭和にかけての佐倉の移り変わりを映像を見ながら講義を聴く形をとった。人気があり受講は抽選となった。

写真集1冊の分量が多いため明治から戦中までの期間に限定し、町や人の様子が紹介された。堀田家の深川の庭園など印象に残る写真が数多く紹介された。今回は講義ではなく映像が中心になっているため、佐倉の歴史の移り変わりをリアルに感じることができる講座となった。また、特徴としては、写真集のキャプションには書かれていない、写真提供者から得られた写真にまつわるエピソードなどが多く紹介された点である。例えば2枚の写真、時系列的にはA→B。しかしAは洋髪でBは髷姿。時系列的には逆に感じられる。実はBは後になって武士の姿を写真に残しておこうと、わざわざ髷を結って撮影した写真であった。正に編集に携わった人ならではの貴重な話が聞くことができた。

当日配布した資料が非常に詳細にできており、受講者からも好評であった。アンケートからも続編を望む声があり、写真集の後半部分の講座開設も視野に来年度事業を考える必要があると感じた。

佐倉学入門講座 衛生行政のはじまりと伝染病予防対策

①開設趣旨 明治初期から新たに布かれた衛生に関する制度や伝染病予防方法と、当

時の地域の人々の様子を学ぶことで郷土への愛着と理解を深める。

②募集対象 成人 30人

③プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	6月 2日（水） 10:00～12:00	明治以降、町村役場はコレラ・赤痢等の伝染病予防方法をどのように普及し、地域の人々はその内容をどのように知り、習慣として定着させたのかを、残された資料から探る	市史編さん委員 中澤 恵子

④講座を終えて 新型コロナウイルスの感染が始まって1年半。今だに収束が見えない中、伝染病予防を身近な問題として捉え、その対策を過去の事例から学ぶことができたのは意義深かった。

講義は、明治時代の歴史的資料を中心に進められ、内容は、明治政府が衛生行政を始めた経緯、制度の整備、地域社会における予防方法など。また佐倉学入門講座ということもあり、根郷地域の当時の対応についても触れられており、地元の受講者の方々にとってはより興味深いものとなった。

配布された資料には、当時のマスクの装着法の図解、新聞記事の切り抜きなど視覚に訴えるものも多く、具体的で分かりやすく印象に残るものとなっていた。「100年以上前に流行したスペイン風邪でも、ほぼ現在と同じようなマスクの着用対策が取られていたことには驚かされる」といった受講者からの感想もあった。

今後も、多くの方に興味を持っていただけるよう時流に合った話題を取り上げ、併せて地元との関連も視野に入れながら講座を展開していきたい。

佐倉学入門講座 根郷ふるさと探訪

①開設趣旨 郷土の歴史・文化・民俗・自然をテーマに学び、散策を交えて、郷土愛を高める。

②募集対象 成人 各10人

③プログラム

回	実施日（曜日）	学習内容	講師
1	7月 3日（土） 9:30～12:00	野草観察会 寺崎地区を散策しながら、野草や古木等を観察し、郷土の自然について関心を高める	佐倉野草会 近藤 維久子
2	10月 9日（土） 9:30～12:00	秋の野草観察会 寺崎地区を散策しながら、秋の野草や古木等を観察し、郷土の自然について関心を高める	佐倉野草会 近藤 維久子
3	11月 8日（月） 13:30～16:30	寺崎地区史跡めぐりと寺崎薬師大祭に行こう！	菊地 昭夫 井原 重之

④講座を終えて 第1回は雨天のため中止、第3回は新型コロナ感染症の感染拡大防止のため中止

第2回は「寺崎地区の古木と野草をたずねて」をテーマに秋の野草観察会を実施した。参加者は、講師の解説を熱心に聞きながら、市の名木古木に選定されているタブノキ（樹齢300年）やスダジイ（樹齢250年）、ケンボナシ（樹齢200

年)、秋の野草などを観察した。講師が持参した植物のサンプルや資料は、植物の魅力を感じ取れるもので、非常に好評であった。参加者から「とても楽しく散策することが出来た」、「次回もぜひ参加したい」など多くの声が寄せられた。

根郷地区には豊かな自然が多く残されており、今後も地域の自然に親しむ機会を提供していきたい。近年、地域の方の協力で、寺崎城址にはヤマユリが群生するようになり、今後の保存活動が期待される。

佐倉学体験講座 こんにゃく作り講座

①開設趣旨 江戸時代には、将軍家への献上品として有名だった佐倉特産のこんにゃく。地元の根郷地区で栽培されたこんにゃく芋から、こんにゃくを手作りして調理し、参加者同士の交流を図る。

②募集対象 成人 10人

③プログラム

回	実施日(曜日)	学習内容	講師
1	3月 3日(木) 9:00~12:00	佐倉で栽培収穫されたこんにゃく芋を使い、地域住民の協力を得てこんにゃくを手作りする	根郷小学校ふれあいボランティア 代表 牛玖 昌弘

④講座を終えて 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止

4. 団体育成事業

根郷地区社会教育関係団体への支援

根郷地区青少年育成住民会議

近年、青少年を取り巻く環境は著しく変化し、それに伴う諸問題は複雑かつ深刻化する傾向にあるようだ。こうした問題の解決のため、市民一人一人が問題解決に取り組み、家庭や学校、そして地域がそれぞれの立場で、各種団体と行政が協働して健全育成を推進していくことを目的に、昭和57年、佐倉市青少年育成市民会議が結成された。

組織としては市内7地区の青少年健全育成住民会議と、子ども会育成連盟、PTA連絡協議会などその他構成団体からなり、事務局は佐倉市健康こども部児童青少年課が行っている。

根郷地区青少年育成住民会議は、地域住民が相互に連携協力し、青少年の健全な育成と非行防止、福祉の充実を図るため、研究並びに協議を行い、地域ぐるみ活動を伸長させることを目的としている。主な活動としては、防犯パトロールや地域行事の企画・運営、各種団体への助成などを行っている。

南部地区子ども会育成会連絡協議会

子ども会は、地域の中で異年齢の子どもたちがさまざまな活動を通じて行動することにより、子どもの社会的成長の糧となる活動である。例えば、子ども会での異年齢での活動は、協調性やリーダーシップを、地域活動では郷土愛が、奉仕活動により公共性が、また、創作活動により創造性が育まれるなど、さまざまな活動による効果が期待されている。

根郷公民館を活動拠点とした南部地区子ども会育成会連絡協議会（南子連）は、南部地区内の子ども会及び子ども会を取り巻く関係諸機関、団体等との連絡調整を図り、各単位子ども会の健全な発展に寄与することを目的に活動を進めている。

例年、子ども会活動に役立つゲーム講習会、交流会や研修などの事業の実施、広報紙「あくていぶ」の発行、子ども会活動に役立つ各種備品の貸し出しも行っているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ほとんどの活動は中止となった。

今できる子ども会の活動の話しあいを重ね、広報紙「あくていぶ」の発行やオンラインによる会議を実施した。

定期利用者懇談会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため書面にて開催。

調理室利用者懇談会

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため書面にて開催。

5. 広報事業

根郷公民館だより

- 趣旨 公民館の事業、利用団体の活動、地区の情報などを案内するために公民館だよりを発行した。
- 発行回数 年3回（4月20日、9月15日、3月15日）
- 発行部数 4月20日号 400部 9月15日号 8,800部
3月15日号 400部
- 配布方法 各公民館・図書館の窓口配架。
根郷地区各世帯・各事業所に新聞折込みにより配布（9月15日号）

6. 図書事業

図書の貸出・返却

- 趣旨 読書活動を支援すると共に、個人学習や集団学習への資料提供を行い、学習の深化を図った。リクエストの受付や他館からの返却受付などの利用者の便を図った。また、佐倉市関連資料や根郷地区関連資料を収集し、貸し出すことにより、地域理解を深めるための支援を行った。
- 蔵書数 約3千冊
- 月別貸出冊数・返却冊数

月別 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
貸出数 (冊)	144	103	144	147	169	169	182	153	148	134	145	157	1,795
返却数 (冊)	300	261	319	259	321	342	298	326	285	298	227	391	3,627